



令和3年度

横浜市立生麦小学校

# 学校だより

横浜市鶴見区生麦4-15-1 学校長 沼田 留美子  
<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/namamugi/>



2月（如月）

## 球根のスイッチ

校長 沼田 留美子

一年生が植木鉢にチューリップの球根を植えたのは冬が始まるころでした。校長室の前のインターロッキングに並べられた鉢に、子どもたちがせっせと水やりをしている姿が見られました。「なかなか葉っぱ、はえてこないなあ」と心配そうな声も聞こえてきていました。子どもたちの経験上、初夏にまいたアサガオはすぐに芽が出て、ぐんぐん伸びたのに、チューリップの球根は来る日も来る日もとんがり頭を土の上のにぞかせるだけで、水をやってもあまり変化がありません。だんだん水やりをしている姿はまばらになってきました。チューリップは枯れてしまったのでしょうか。

土の上ではあまり変化が見られないチューリップですが、土の中では大事な成長をしています。土にしみこんだ水を貯え、養分を吸うために大事な根っこをのばしているのです。この時期に水をたっぷりあげないと、根が乾燥してしまい、そのあとにいくら水をあげても水を吸収する力が無くなって、花が咲かないこともあるのだそうです。では、どうしたら花が咲くのでしょうか。

チューリップの花が咲くには、寒さが大事です。10℃に届かない、ちょうど今ぐらいの寒さにさらされると、球根の中で茎や花のもとが作られるしくみになっています。花を咲かせるにはある程度の間、寒さに触れることが必要です。寒い冬は、花を咲かせるための養分をしっかりと球根にためる大切な期間です。春になって気温が上がると、まるでスイッチが入ったかのように、一気に茎やつぼみが伸びて、ようやく花を咲かせられるのです。

1月から再び、新型コロナウイルス感染症の陽性者が増えてきました。まん延防止等重点措置期間も続いています。行事を縮小したり、人と会うのに制限があったり、辛抱しなければならぬ時期です。困難なこともたくさんあります。すぐに結果が出なくても水をやり、気をかけていれば、心に養分を貯え、夢の実現のための根をしっかりと伸ばすことができます。そして春が来た時に一気に花開くように、課題や不安を乗り越えるスイッチが入る日が来ることでしょ。

先日、「あっ、芽が出てきた」と鉢を抱えるようにして少し緑色になったとんがり頭を懸命に見ている子どもがいました。手には水やり用のペットボトルがしっかりと握られています。明るい笑顔に私も元気をいただきました。春はもうすぐです。